

# 日英「低炭素社会」探る

## CO<sub>2</sub>削減へ共同研究

【ナイロビ＝庄司直樹】日本政府は16日、ケニア・ナイロビで開催されている国連気候変動枠組み条約の第12回締約国会議(COP12)で、温室効果ガス排出の少ない「低炭素社会」を構築するため、英国との共同研究を進めることを表明し

た。枠組み条約交渉を離れた先進2カ国による新たな試みで、地球温暖化問題を主要課題の一つとして08年に日本で開催する主要国首脳会議(G8サミット)を見まえ、日本が指導力を発揮する姿勢を示したものだ。若林環境相が、閣僚会

合での意見表明で明らかにした。日本代表団によると、05年にG8サミットを開いて温暖化対策

「グレンイーグルズ行動計画」をまとめた英国から呼びかけがあった。計画に基づきG8間の対話結果は、08年の日本でのサミットで報告されることになっており、両国で連携することになった。2050年までに先進

国の温室効果ガス排出量を現在の半分にすることを目標に、どう社会構造を変えなくてはならないか探る。バイオマス(生物資源)や再生可能エネルギーなどCO<sub>2</sub>排出量の少ない社会の実現に向けた選択肢を検討する。